

たまい場つうしん

第8号

—大人も子どもも気軽に立ち寄ってお茶のみ話に花が咲く、そんな地域の公民館をめざして名づけました—



福生ちいきの食育講座

★親子で味噌づくり



去る二月五日(土)、六日(日)、「福生ちいきの食育講座」の二つ、「親子で味噌づくり」が、白梅会館の裏庭で行われました。

○昔ながらの味噌づくり

今年は、熊川に住む田中隆夫さんのご協力で、五右衛門風呂のような大鍋をカマドにかけて、大豆をゆでたり、熟成した味噌を混ぜたりして、おいしい米麹の味噌を仕込むことができました。参加者は、十六組の親子・〇歳から小学生までの子どもと保護者、食育ボランティア五名を含めて、約五十名の老若男女が賑やかなひとときを過ごしました。その様子を紹介します。

○一日目

- ◆田中さんから、「味噌づくり」の全体的な説明を受けます。
- ◆材料は、一家族、大豆一キロ、米麹一・四キロ、塩二百八十八グラムです。これだけで五キロの味噌ができます。
- ◆まず、麹と塩をそれぞれ量り、混ぜ合わせます。
- ◆大豆を外の水道で洗って、一晚浸水します。
- ◆明日の準備・裏庭にカマドを設置して一日目は終了です。



○二日目

◆朝の九時に二つのカマドに点火。マッチで新聞紙に火をつけるところから始まりです。

◆一晚浸水した大豆を大鍋二つに分けて火にかけます。

◆時々、大豆の固さ加減を試食しながら待つこと約二時間。ゆであがりです。

◆ゆであがった大豆をボウルに移します。すりこぎやビール瓶の底を使って、粒がなくなるまで潰します。

◆原形を留めないほど潰れた大豆をバットに広げて冷まします。

◆これに、一日目に用意した麹と塩を混ぜ合わせます。次に、中に味噌をあんこのように入れて、おにぎりくらいの大きさに丸めます。五キロの味噌に対して、味噌は、おにぎり一個分くらいの割合です。味噌を加えることで、三年物と同じくらいの熟成度になります。

◆最後に容器に入れて、おにぎり状に丸めた味噌を漬したら完成です。

○お楽しみ

二日目の大豆をゆでている間、種味噌を、キュウリや大根に付けて試食しました。(味噌はキュウリに付けて食べる)



熟成度が分かるそうです。(また、カマドでできた炭を集めて、別の場所に簡単なカマドを作って焼き芋をしました。田中さんが作ったカリカリ梅や、ボランティアの方が漬けた漬物など、それぞれの家庭の手づくりの味をいただきました。

○白梅がめやまじいん

全てが終わった時には、一時半を回っていました。長い時間かけて仕込んだ味噌には、料理教室で作る味噌とはひと味もふた味も違うものが込められています。その味噌が食卓上がった時に、違いに気づいてもらえるはずと確信しています。

親が(子どもが)地域の人とやりとりしている様子を子ども(親)が見ているという光景。その昔、近所つきあい活発だった頃は日常的に行なわれていたことが、今では珍しいことになってきています。世代が違ふとなおさら交流は難しいのが現状でしょう。だからこそ、白梅分館では、地域のおじさん、おばさんを講師にお招きして、あえて昔ながらのつくり方で、この地域の食べ方を親子と一緒に学び場を創っているのです。



この講座をきっかけにして、家族ぐるみのおつきあいが始まることも期待しています。欲ばり過ぎですか、ねっ。

て変わって来ている点、改善したい点なども聞いてみました。



○チャイムやアナウンスにびっくり！

☆正午、夕方、夜の九時と、チャイムやアナウンスがあつてびっくりした。転入したばかりの頃は、眠っていた子どもがその音で驚いて起きてしまったが、今は慣れた。

★行方不明のおばあさんのアナウンスがあると心配になってしまふ。結果を知らせてほしい。(知らせているという声あり)

☆夫の弟が、消防団に入っているので無線も持っているが、火事の放送などは気にしている。福生の消防団は、その活動が高く評価されているようである。



◆参加者の出身地

妻も夫も福生出身の人 一名

妻も夫も福生以外の出身の人 八名

(この中に夫が福生出身の人 二名あり)

福生で子育てをした感想は？

福生出身の参加者は一名で、意外に女性はその地域から引越して来た人がほとんどでした。そこで、以前住んでいた地域と比較して気づいたことなどを聞いてみました。また、福生出身の人には、以前と比べ

○出産・子育てへのサポートが多い



★横濱では、妊娠して二か月以内に病院を予約しないと、そこでの出産ができない。自分は、父が入院していたということで、何とか出産を受け入れてもらうことが出来たが、それに比べ福生は産院が沢山ある。

☆福生には助産院があるのでとても安心。森田助産院は食事もおいしくて、とてもよかったので、またそこで産みたい。

★今度妊娠したら、森田助産院で是非産みたい。

☆初めての子育ての時に、引越してきたばかりで知り合いもなく困っていた時に、子ども家庭支援センターに相談したら、とても力になってくれて助かった。

★福生は、児童館や公民館など、子どもと一緒にける公共施設が多い。

☆幼稚園四、保育園十二、認証保育園三か所あり、こだわらなければ必ず園に入れる。立川や八王子では、何か月も前に申込んだり、並んだりしないと入れないので、福生は恵まれている。

★子育てやそれを支援するサークルや地域活動も多く、「ぶらんこ」や「ふわふわだより」など、子育てに関する情報発信が多いので助かる。



○福生は最高です！

☆福生に独身の頃から住んでいるが、小さい時、子育て時期、働いている時、老後の時と人生のそれぞれの段階で最高と思う。

★公園、体育館や図書館が多く、医者も充実して住んでいる人へのサービスが行き届いている。至れり尽くせりで最高。

☆テニスコートが市内四か所あり、ゴルフデンウィークでも予約できる。都心では、一年に一回位しかできなかったのに、素晴らしい。

★通勤通学が便利だし、住みやすい。五日市線は、一時間に三本くらいしか電車がなかったのに。

☆埼玉県に住んでいたが、福生はどこに行くのも、自転車や徒歩で行けるし、駅や体育館、公民館などの施設に行くにも、近くて嬉しい。子育てがしやすい町だ。

★公園にトイシがあるのはすごい。以前住んでいた埼玉では考えられない。

○地域性



☆横濱は、山と谷、アップダウンで登ったり降りたりだったので、平地が多い福生に来て逆に迷ってしまった。

★広場が少ない。田舎は広々とした遊び場があったので。

☆現在加美平に住んでいるが、川下に行くにつれて、深いつながりがあると聞いている。福生第四小学校は、永田、長沢、加美の地域ががっちりしていて、昔ながらの家が多い。ママ達が実家に住む二世帯住宅やお屋敷が目立つ。お呼ばれした時に、子どもが汚い靴下をはいていて恥ずかしかった。★鍋も、地域の繋がりがすごい。最初は、

知り合いがいなかったが、地区役員になり、町会にも入って大変だったが、一年かけて楽しさもわかってきた。お祭りでは、「おみこし」を担いだりして、地域に溶け込む事が出来、知り合いも増えた。

☆横浜に住んでいる。やはり古い家が多く、町会の役員をやったけれど、新しい人にとって、なかなか入りにくい地域だと思う。

★第一小学校から四小までは、地区が古く結びつきが強く、町会と学校の地区委員が一緒だったりする。それ以外の小学校は、町会がらみが少ないので、やりにくい面とボランティアが集まりやすいという両面があると思う。

☆福生第二小学校に、子どもが通っているが、年に数回、「読み聞かせ」というのがあり、父兄が子どもたちに本の読み聞かせをボランティアでしているので参加してきた。★ふっさつ子やファンクラブなど、それぞれの学校で、地域の人がボランティアをしている。

○基地の味



☆横浜出身だが、横浜に比べたら福生はより平和な街だと思う。同じインターナショナルな所でも、福生はアメリカ人、横浜にはアジア系の人が出稼ぎに来ているので、雰囲気は違つし、福生の方が安心。

★武蔵野台に家を買った知人は、不動産屋から、基地の周辺や福生駅の東側の赤線通りは、小さい子には、良い環境ではないと言われたという。

☆高校生位になって、通学して帰宅する頃に、お店で声をかけられたりするので、心配だというのを聞いた事がある。

★友人は自衛隊員だが、「横田基地の人は陸軍の人だから、大丈夫だ。」と言われたことがある。

☆外国人が多くて、自分は怖いと思った事はないが、山梨の祖母は、外で会うだけで怖いと言っていた。

★福生は、市町村では、武蔵野市に次いで一人あたりの飲食店の店舗数が多く、いろいろな国のレストランがあり、楽しめる。

○基地の騒音がうるさい

☆八年ほど前に加美平に引っ越して来たが、当時は今よりも横田基地の騒音がうるさくて、「逃げないといけない。」と思ったほどである。

★飛行機の音が大きくなって、落ちてくるように怖いと思った。

○交通が激しい



☆銀座通りは、埼玉に比べて車が多い。スピードを出したり、路上駐車したりする車

がいる。ガードレールがないので、子どもを歩かせたり、自転車に乗せたりが怖くてできない。できれば、静かな環境に住みたい。

★車がなくて、すごい都会と思った。

○改善してほしいこと



☆道路の整備がされていないところがあり、子どもを連れていくと怖いと思う所が結構ある。

★小学校が多すぎる。第四小学校と、第五小学校は一クラスしかない学年がある。しかも少人数である。人数が減っているのに、小学校が多いので、小学校数を考え直してほしい。

☆幼稚園などで友達になっても、小学校区が違って、一緒に入学できない。

★公立の小学校も、土曜日を開校にしてほしい。土曜日が休日だと、平日が二年生でも六時間目まであるので、子どもが忙しそうで、いつも疲れている気がする。

☆中学生になると、休みの土曜日に塾に行く事になる。自分たちの頃は、もっとゆとりがあり、暇があった。常に子どもをせかせかせなければならず、是非、土曜日の休日を考え直してほしい。(賛成意見多数)

★自分が中学生の時は、第二、第四の土曜日だけが休みで、それ位が良いと思う。

☆羽村市では、学期が三学期から前期、後期の二学期制になったが、何を考えているのだろうか。そうなって欲しくない。

○皆さんの話を聞き終えて

今回、福生で子育てをしているお母さん達から、福生という街の印象や良い点、悪い点など、本音を聞くことが出来ました。

予想以上に、福生は子育てしやすい街だということがわかりました。特に、他県などに比べると、公民館はじめ児童館、家庭支援センターなどの公共施設や、市民主体の自主サークル活動などが充実しているという声が多かったのは嬉しい事でした。

一方で、子どもが大きくなっても、住み続けられるかどうかについては、不安な声もあり、土地がない、土地が高い、将来も住み続けられるだろうか、という疑問も出てきました。児童数が減少する中、小学校が七つもあるのは多すぎるので、減らしてほしい、この意見が印象に残りました。

福生が、小さい子どもの子育て期だけでなく、今後までを含めた暮らしやすい街であるために、これからも皆さんと共に考えたいと思いました。



市の鳥
シジュウカラ



市の花
つつじ

平成二十二年度 白梅分館では

こんな講座(教室)をしました

パソコン教室入門編

「初めてのインターネット」インターネットを見ることがから、メールの仕組みや送受信の方法を学ぶ。

熊川の歴史講座

「熊川村の庭場と講中」庭場の構成員の仕組み、冠婚葬祭での役割などから地域の歴史を掘り起こす。

熊川分水講座

◆昭利用水と昭島中沢堀を歩く

南公園から昭利用水に沿って中神駅までの道を散策し、地域の人々の生活や水路の形態の違いなどを学ぶ。

◆熊川分水の成り立ち

酒造家と熊川分水の関係と熊川分水竣工までのできごとを学ぶ。

◆夏休みことも探検

片倉跡地の中を流れる熊川分水には、自然がそのまま残っている。昆虫、魚、草花などを観察する。

◆熊川分水の自然

熊川分水周辺の植物を観察する。

◆熊川分水と製糸業

熊川分水の成り立ちと森田製糸工場の歴史、繭から生糸のできるまでを学ぶ。

◆熊川分水を歩く

玉川上水の取水口から多摩川に流れ込

む約2キロの熊川分水周辺を歩く。

◆熊川分水の保全について

熊川分水講座の総括と、自然環境を含む分水の保全について考える。

おもちゃ箱音楽会

乳児から高齢者まで、身近な場所で気軽に楽しむ音楽会。おもちゃ箱の中から飛び出す楽器を使って、さまざまなジャンルの曲を奏でる工夫と仕掛けが興味深い。

◆サマーコンサート

「となりの下町」から「イパネマの娘」まで幅広いレパートリー。

◆クリスマスコンサート

「くるみ割り人形」。演奏とスクリーンの絵本の絵と朗読と共に楽しむ。

保育室併設講座

「本音で話そう」夫のこと、子どものこと、自分のこと「毎日の生活の中で感じていることを、子育て期の親同士が本音で語り合う。子どもたちは、保育室の異年齢集団の中で過ごす。そこでの子どもの変化が親たちに多くのことを気づかせてくれる。親子の食育講座」①から③の半年間のコース。土や自然とのふれあいを親子で体験し、食や農への理解を深める。

①親子のための麦体験

麦刈りと脱穀を体験。

②親子のための陶芸教室

フランチプレートの作陶と絵付けを体験。

③親子のためのサツマイモ体験

土づくりから始まり、植え付け、除草と観察を経て、秋には芋掘り。焼き芋づくりとサツマイモ芋づくりを体験。

福生ちいきの食育講座

地域のおじさん、おばさん達と交流しながら、この地域の郷土食を体験する。

◆ゆでまんじゅうとお抹茶体験

地粉と前日に煮たあんこを使って、まんじゅうをつくる。カマドに薪をくべて大鍋の中でゆでると「ゆでまんじゅう」の出来上がり。これを抹茶と共にいただく。

◆親子のためのお飾り教室

市内や近隣の水田の稲ワラを使って、クリスマスやお正月用のお飾りを作る。

◆親子で味噌づくり

カマドに薪をくべて大鍋で豆を煮る。漬けて、米麹と混ぜる。昔からのやり方で味噌づくりを親子で体験。

写真で見るまち再発見講座

見慣れた景色を写真にすることで、多くの発見がある。この街の特色や人々の生活など、新しい発見を見込む。

世界のボードゲーム教室

◆親子のための教室

◆子どものための教室

世界中で楽しまれている上質なボードゲームを楽しむ。楽しく遊ぶためには、ルールを守ること、相手のことを考えるなど大切。コンピュータ相手では味わえない格別の楽しさがある。

陶芸教室

福生市のライトダウンキャンペーンに身近なところから協力するために、「手づくりの灯りで癒しの空間を楽しむ」をテーマに、世界に一つの手づくりの間接照明(陶灯)を作る。

気功講座

楽しく生活するために必要な、健康づくりと人間関係づくりを目指す。

生きがいひろば

この街で暮らしてきた高齢者が、「思い」を語り合う。

人生うたい語りのつどい準備講座

「生きがいひろば」の高齢者たちの思い出話を、朗読とハミングと風景写真のコーラボレーションで一つの世界を創ります。十二月十日の「人生うたい語りのつどい」で発表。

これから実施の事業

福生ちいきの食育講座

◆親子ですりだしうどん体験

地粉で作ったうどんを、カマドにかけた大鍋で茹で上げる。熱いうちに、ネギと鰹節と生醤油をかけて、「スルッとすすめる」。

◆親子ですりだしうどん体験

◆親子ですりだしうどん体験

「利用者交流会」は、なぜ必要なのか? 「交流会」とは何なのか? 全て考え合う中から、もっと楽しく公民館活動をする方法を探る。

※編集後記は、折り込み紙面に書きました。